



荒尾市
食生活改善推進員
協議会

コロナ禍での苦境も 新体制で活動を再開

「荒尾市食生活改善推進員協議会」は、私達の健康は私達の手で、をスローガンに、食を通じた健康づくりを推進する全国規模のボランティア団体です。今年で32年目を迎える会は、現在73人の会員が所属。これまで地区の小学生の親子や高

食べることは、生きること。 食を通じ、すこやかな地域を育む。

校生、男性、地域住民を対象に調理実習を主催してきました。近年は、新型コロナウイルスの影響で活動が思うようにできなくなり、一時は先の見えない不安感から、会を辞めたいという声も上がっていたと言います。「コロナという、活動以外の理由で仲間が離れて行くのは、やっぱり悔しい。感染対策も大事ですが、免疫力を高める食こそ大切にしたいものです。そこで地区ごとの活動を見直し、目的別のチーム体制を取



「高校生食育アドバイザー」活動
卒業後は社会に出たり、1人暮らしを始める人もいる高校生の内に食を学ぶことで、将来的な食の自立を促します。

り入れて再始動しました」と話すのは、会長の内田さんです。時短レシピ作成チーム、高校生の食の関心を高める高校生チーム、イベントの企画を担当するイベントチーム、中学生の食の課題解決に取り組みむ中学生チームを編成すると、これまで以上に細やかに、ダイナミックに、会の活動は広がっていると言います。

アイデアと繋がりで 今まで以上の活動を

学校での食育講座や「高校生食育アドバイザー」の育成、幼児の間食を見直すための「つなぎ食」の啓発に加え、同会の有志のメンバーが「荒尾すこやか食堂」を開設（3ページ）、今後も活動を継続していく方針です。地域を育む活動には、これまでに以上の期待が寄せられています。



会員の
みなさん

お腹が満たされたら
自然と笑顔になれるもの。
食の学びは奥が深いですよ！



食と地域に対する想いを胸に、
活動を続ける会員のみなさん。



「おにぎらず」の
できあがり！

会長
うちだ やすよ
内田 保代さん



給食を通じて 地域をつなぐ 長洲町と共同整備

今年8月に完成したばかりの「荒尾市・長洲町学校給食センター」。県内最大級の施設であり、全国でもトップクラスの設備を搭載しています。これまでも荒尾市・長洲町エリアの学校給食6千食分を網羅してきたセンターですが、新しくなった施設では、食品の製造工程における衛生管理の国際的な手法である「HACCP」に則った設計や、「冷却機能設備」の搭載、卵・乳などの食物アレルギーの原因食物を除いた給食を提供するための「食物アレルギー対応室」を完備するなど、これまでの学校給食の課題を解消しつつ、さらなるニーズに応える姿勢です。日々、子どもたちの成長の一助にもなる給食

荒尾梨のカット中！



荒尾市・長洲町
学校給食センター

施設の新設を機
に、毎食小鉢1皿が
追加されることに。



は栄養バランスが考えられたメニューはもちろん、最新設備の導入で、より安心・安全で美味しい給食を子どもたちに提供できるようになりました。さらに近年多発する自然災害対策として、非常用発電機も搭載し、大規模被災時には、約3日分の炊き出しの調理が可能に。有事の際は、食の支援拠点として地域住民を支える災害適応力の高さも注目を集めています。

香りや食感、彩りまで 楽しみが広がる給食を

「配送トラックを見送る瞬間が一番ホッとします」と話すのは、同施設で栄養教諭を務める徳永さん。「冷却機能設備のおかげで、冷たいサラダや副菜を提供できるのがうれしいです」と声を弾ませます。実は、これまで衛生管理の点から冷たい献立が提供できませんでした。「食品温度が変われば、食感や香り、色味も変わります。これからは栄養満点の、食べる楽しみが層広がる給食を届けたいですね」。

子どもたちから届く
感想や感謝の寄せ書きを励みに
美味しい給食をお届けします！

栄養教諭
とくなが さおり
徳永 早織さん



子どもたちの成長を支える給食。

最新設備の導入で、より安心・安全な給食の提供へ。



給食の時間は、配膳から始まります。
それぞれが食べることの大切さを学ぶ、
貴重なひと時です。

